

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2772600587		
法人名	社会福祉法人 三養福祉会		
事業所名	サンホーム桑才		
所在地	大阪府門真市大字桑才159番地1		
自己評価作成日	平成 22年 1月 30日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1)看護師、協力医療機関と連携しての健康管理、24時間の医療支援を実施。 2)脳の活性化のため、くもん式学習療法を実施。 3)朝・昼・夕の食事は毎食作りたてを提供。 4)月1回は仕出屋の料理を提供。 5)入浴は毎日実施。 6)日帰りバス旅行を年2回実施。 7)個別プランにて生活リハビリの実施。 8)母体が特別養護老人ホーム。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772600587&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の社会福祉法人が運営する特養等の事業所の近くの住宅地域に、平成14年に3ユニットのグループホームを開設しました。職員は地域住民との交流を図り、「認知症ケア」についても地域住民の温かい理解と支援を受けています。地域ぐるみの活動の場としてホームを開放しています。地域交流会や介護予防教室への参加、買い物や周辺散歩など、出かける機会が多くあります。ホームでは利用者の意向を大切にゆったりとした生活支援を心がけながら、毎日の食事作り、入浴など家庭と同じような日常生活を職員と共に過ごします。ボランティアの援助で、リサイクル品で作る飾り物を手作したり、物忘れ防止の学習療法への取り組み、日々の機能訓練などは利用者の励みと能力維持に繋がっています。法人の理事長も率先して参加する。地域のボランティア「おおぞら推進会」の協力のもと、法人と合同で、四季折々の行事を行うなど地域との交流は多岐にわたります。年2回のバス旅行は好評で家族も一緒に参加します。入居直後に比べ利用者の笑顔が増え、穏やかになったことに、家族も安堵しています。職員は利用者の笑顔に出会えるための工夫を心がけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 2月 17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は「地域の中で自立と尊厳を大切に」を掲げています それを 朝・夕のミーティングにおいて職員お互いが確認し合い 実践に向けて取り組んでいます	色紙に利用者が書いた理念を各ユニットの入り口に掲示しています。「いつもあなたの笑顔に会いたい」というケアのキャッチフレーズも理念と共に記されており、職員は利用者の笑顔に出会えるための工夫を心がけています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店、理美容院、新聞屋等地域の商店を利用することで交流を図り、また事業所の行事や地域の行事等を通じ地域の方々との交流を深めることに努めています	ホームは開設から7年目を迎え、地域住民との交流も深まり、近くの公園への散歩時やコンビニへの買い物時に挨拶を交わしています。お正月の初釜には地元ボランティアの方々のお点前があり、同伴の子ども達がお運びをしてくれます。近くにある母体法人の理事長・施設長が率先して参加し、地域のボランティアの方々が集う「あおぞら推進会」の協力のもと、法人と合同で、四季折々の行事も行われています。法人主催の夏の納涼祭や年末恒例の餅つき大会を行うなど、利用者家族や地域住民に人気があります。また、地元の秋祭りや地域交流会では作品の出品だけでなく、利用者がファッションショーのモデルとして参加もしています。地域で開催される介護予防教室にも参加します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域で主催される認知症の啓蒙活動に協力 参加しています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、討議した内容がサービス向上に繋がるよう取り組んでいます	運営推進会議は利用者家族・民生委員・地域包括支援センター職員等の出席により概ね2ヶ月に1回、年6回開催しています。利用者の近況・行事予定・ホーム内での活動内容等を報告しています。5月には家族参加の行事の際に開催し、多数の家族と意見交換を行っています。外部評価結果についても報告し、総合玄関の施錠に関する「拘束と安全性」の選択について検討しました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員の方に参加して頂き、他に相談事があれば市の担当者にお問い合わせを助言を受けるなど、協力関係が得られるよう努めています	外部評価結果や運営推進会議議事録は市の担当課に提出しています。ホームの運営や入居時の利用者に関する疑問点・相談事項等について常に市の担当者と情報交換しています。「介護保険に関する巡回相談」には市の職員も来訪し、利用者や地域住民の相談に対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアに取り組んでいます。居室には鍵をかけないケアを行っていますが、玄関に関しては交通量の多い幹線道路に面しているため安全を図り、ご家族様方の強い要望もあって施錠をしています。</p>	<p>「身体拘束廃止委員会」を法人内に設置しています。身体拘束廃止に向けて取り組み、原則として身体拘束は行わないこと等について、職員は理解しています。総合玄関の施錠に関しては5月の運営推進会議時に家族の意見を聞く機会を持ちました。ホームは車の往来の激しい幹線道路に面していることもあり、安全優先との希望が出ています。各ユニットの出入り口は施錠せず、開放しています。利用者の中にはエレベーターのテンキーの操作が可能な方もあり、玄関の鍵も中から開錠できる方もいます。ひとりで開錠できない方は外出したい素振りを察知し、散歩に出かけたり、他のユニットを訪問したり、屋上に出たり閉塞感を感じさせない工夫をしています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修、勉強会を通じて学ぶ機会を設け虐待の防止に努めています</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者様には担当者と蜜に連絡を取り合い相互協力し合って支援を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様には入居される前に十分な説明を行い、理解・納得をして頂いています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内に意見箱を設置しています	家族の来訪時には利用者の様子を伝え、要望を聴くようにしています。玄関には意見箱を備えていますが、職員は利用者からも直接要望を聴く姿勢を持ち、どんな相談ごとや意見でも受け止め、会議で検討の上、対応について職員に周知しています。家族にも伝え説明し了解を得る努力をしています。運営推進会議を行事の時に開催し、多くの家族の参加を得て要望・意見を聴く機会を作っています。近々家族の要望により、結婚式へ出席する利用者へのケアに馴れた職員が付き添う予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回 職員会議を開催、毎日朝・夕のミーティング時等 随時行っています	朝・夕のミーティング時や月1回の寮母会議時に職員の意見や提案を聴く機会を設けています。急ぎの案件はミニ会議を開いて早急の対応を図ります。事務室に「意見交換ノート」を置いていますが、活用事例はありません。ノートを活用しなくても現在は職員同士意思の疎通は図れています。法人と合同で行事を開催する場合は、準備段階から理事長・施設長も加わり、職員と意見交換する機会を作っています。大きなイベントの後には職員やボランティアの方の慰労会を理事長が催し、ねぎらいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境・条件の整備に努めると共に、待遇面等の向上により取り組んでいます		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外において研修を受ける機会を確保しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催される地域交流会に参加したり、協議会や連絡会を通じて交流を図り、サービスの質の向上に努めています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様から聴く機会を設け 受け止める努力をしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前 および 入居後の面会時等状況に応じて聴く機会を設け受け止める努力をしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様から教えて頂くことも沢山あり また 喜怒哀楽を共にしながら 支え合う関係を築いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	両者の意見を尊重し合い、よりよい関係が築けるよう ご家族様とも蜜に連絡し合い 信頼関係を築いています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の状況に応じた支援に努めています	地域密着により、近隣住民にも認知症ケアやグループホームに対する理解が浸透し、近隣からの入居も増え、利用者の中にはホームのリビングから自宅が見える方もいます。近隣の方が「昔、世話になった」と利用者を訪ねて来ます。また、入居前から利用している理髪店に行ったり、地元の神社や公園にも散歩へ出かけ、昔から馴染みの商店や焼きいも屋に立ち寄りしたりします。地元の秋祭りも楽しみの一つで、なじみの人たちとの交流が復活する機会となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもることなく 孤立しないように配慮しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご本人様・ご家族様のアフターケアに努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に対応しています	入居時には東京センター方式のアセスメント表「暮らしの情報(私の暮らし方シート)」の一部分を活用し、永年馴染んだ生活や好み・好きなこと(もの)・したいこと・できること・きれいなこと・したくないこと・嗜好・趣味などをアセスメントし記録しています。入居後は食事時や入浴時にゆっくり利用者と会話の時間をもち、思いや意向を聴くように心がけています。認知症があっても、子どもや孫に対しての思いを本音で聴くこともあります。行動やしぐさからも利用者の思いを察知します。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の際に「生活歴の情報」を提供して頂き把握に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「日常生活記録表、ケース記録」等に記載し、朝・夕のミーティングで申し送りを行っています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者と話し合い、介護計画書は3ヶ月毎にモニタリングは1ヶ月毎に行っていますが、変化が起きた場合は計画の見直しをしています	利用者・家族の思いや要望を聴き、カンファレンスを行い、大阪GH協方式のサービス計画書を使用し、介護計画を作成しています。介護計画書は利用者・家族等へ説明を行った上で署名をもらっています。毎月モニタリングを行い、カンファレンスを実施し、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っています。見直し時期以外にも必要があれば見直しを行い、利用者の変化に応じた介護計画書を作成しています。介護計画書を全職員は周知しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入後、実践や介護計画の見直しに反映させています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて 柔軟な支援を行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の必要に応じて それぞれの機関に協力を得ながら支援を行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様が希望される医師と連携を取りながら支援に努めています	医療提携している内科医の訪問はほぼ毎日あり、利用者の日々の状態を把握してもらっています。希望があれば入居前からのかかりつけ医療機関への受診について希望を尊重した支援を行っています。夜間緊急時には短縮電話で直接提携医に繋がり、早急の対応が可能です。歯科医は月4回の往診があります。また、機能訓練士の訪問があり、利用者の個別の身体状況や居室等生活住環境に合わせた生活全般の機能訓練を行うことにより、身体機能の向上・維持に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理については、同法人所属の看護師、協力医療機関が連携して24時間医療連携支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関を設け、入居者様の病状等の情報交換を行い 連携しています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向を確認し、医療関係者と連携を図りながら支援に取り組んでいます	入居契約時に終末期支援を行うという方針を説明していますが、今までに看取りの事例はありません。今後希望があれば、利用者や家族の意向を伺い、かかりつけ医と相談しながらホームで対応できる支援方法を示し、利用者と家族の希望に添えるような支援を検討しています。入退院を繰り返す場合はあらかじめ、主治医の意見を参考に、「終末期をどうするか」覚書を受理する場合があります。重度化した場合は母体特養へ入所する事例もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており冷静に対応できるよう備えています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者様と共に訓練を行い、また地域の人々の協力を得られるよう近隣の方々と常々気軽に声をかけ合っています	災害マニュアルを作成しています。年2回避難訓練を実施しています。うち1回は消防署の協力を得て防災避難訓練を行っています。今年に入って各居室も含めてスプリンクラーを設置しました。消火器等も各階浴室横の廊下に設置しています。ホームは近隣住民の避難場所に指定されています。母体特養には避難住民の分も含めた非常用食料を備蓄していますが、ホームには備蓄品はない状況です。	母体特養とは少し離れていますので、ホームにも利用者分の水や食品をせめて2～3日分は備蓄することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「いつもあなたの笑顔に会いたい」をキャッチフレーズに、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています	職員は一人ひとりの人格を尊重し、利用者に対して援助が必要な時でもできるだけ本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけ自己決定しやすい言葉かけをするように努めています。月1回開催する寮母会議では、理念やキャッチフレーズの確認と共に、言葉遣いについても、「お願いします」「させてくださいね」を忘れず、利用者・家族だけでなく出入り業者も職員の姿勢を見ていることを周知し、留意するよう職員に伝えています。職員は就職時に「守秘義務」についての誓約書を提出しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	利用者様の表情やサインをキャッチしながら、話しやすい雰囲気を作り、自己決定ができるように支援を行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせ、ご本人様の希望に沿って支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様やご家族様が望まれるように支援しています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に楽しみながら準備 食事 片付け等しています	食品会社と提携し、毎日1回食材の配送を受けています。食材の品質については寮母会議でも検討して、常に新鮮な食材の納入を求めています。冷凍野菜等の使用はしていません。それぞれのユニットで利用者と共に調理を行いますが、同じ食材を利用しても利用者の好みに合わせて、各ユニットの献立が、異なることがあります。利用者は職員と共に調理の下ごしらえ、味付け、配膳、片付け、洗い物など、それぞれができること、したいことに参加しています。職員は利用者と一緒に食事を摂り、会話を楽しみながら、さり気なくサポートしています。月に1回は仕出屋の料理を出前してもらいます。また、お好み焼きを作ったりする日を設けています。カロリーは食材業者の管理栄養士が管理しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の一日の状態把握ができるように健康チェック表を用いて、その人に応じた適切な支援を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアを行い 常に清潔保持に努めています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄リズムに合わせたトイレ誘導を行っています	排泄チェック表に一人ひとりの状況を記し、利用者一人ひとりの排泄リズムを把握しています。日中は普通の布下着を着用しても失禁の心配がなくなった事例があります。排泄の声かけが必要な場合はプライバシーを考慮し「お部屋に行きましょう」と誘い、自室のトイレを使用してもらいます。温水洗浄便座の使用と清拭で清潔の保持をしています。また、腹部のマッサージなどで排便リズムを整え、極力下剤に頼らない支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に便秘予防の工夫に心がけ適切な対応を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特別な行事以外の日は毎日お湯を沸かし 自由に入浴ができるように支援しています	午後からユニット毎に入浴できる準備をし、利用者は毎日自由に入浴しています。利用者同士誘い合って二人で入浴する場合があります。入浴に拒否的な方には無理強いせず、気分転換を図りながら、時間をおいて声かけを行ったり、職員が交代で対応するなどの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自由に休息ができ 特に夜間は安眠できるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬を理解し 服薬の支援と症状の変化の確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の生活歴や能力を把握し 役割嗜好品 楽しみごと 気分転換等ができるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各人の希望に沿って外出ができるよう支援をしています。当ホームではご家族様も一緒に参加して楽しんで頂けるような遠足や食事会等を企画し、実施しています	利用者の希望や状況に合わせて、日常的には近くの神社や公園への散歩やコンビニやスーパーへの買物に出かけ、近隣住民とも会話する機会を得ます。近くの美容院や理髪店にも出かけます。外出の少ない利用者でも週1回はリハビリの路上歩行訓練などで公園まで出かけます。アクティビティ活動(エコパーク)に参加するために月2回は近くの母体特養に出かけます。また、行事のドライブや、年2回は家族同伴でバス旅行に出かけます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の希望や能力に応じてお金を所持して頂き、購入時には職員が同行しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人様が自由に電話や手紙のやり取りができるように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています	共用部分は大きく開放的なガラス窓があり、1階は庭先に実っている金柑の実や白梅を眺めることができます。2～3階からの景観も良く隣家の庭園を借景で眺めることができます。明るくゆったりとしたソファや畳式の台を設置して、くつろいだり作業をすることができます。食卓の傍に台所の流し台があり、利用者が調理の下ごしらえや下膳、洗い物をしやすくなっています。ユニットの出入り口エレベーター横に談話スペースを作り、交流会に出品した皆で作った作品を展示しています。テラスには屋外テーブルや椅子を置いて外気に触れる場となっています。屋上で散歩の代わりに歩行訓練することもできます。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	共用ではありますが、各人が自由に過ごして頂けるように工夫しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様とご家族様の自由にお任せしています	居室は家族に協力を求め、使い慣れたタンスや鏡台を持ち込んだり、仏壇も置いています。テレビ・冷蔵庫を設置している居室もあります。家族の写真やお気に入りの人形やマスコット・花の植木鉢等を置き、エコパークで作った手作りの作品を飾って、それぞれ落ち着きのある生活の場になっています。トイレ・洗面台が室内にあり、使い勝手よくなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活が送れるよう環境整備を行っています		